

地域版

SASEBO 99 Talk
M Cafe

令和5年度 車座集会 意見交換内容

日時	令和5年11月30日(木) 14時から
場所	早岐地区コミュニティセンター 集会場
テーマ	(1)交通インフラの整備 (2)安心・安全なまちづくり (3)自治会(町内会)活動の将来像
出席者	地域参加者13名、市長ほか関係者3名 合計16名

佐世保市 市民生活部
コミュニティ・協働推進課

令和5年度早岐地区 意見交換内容(要旨)

テーマ:(1)交通インフラの整備

地域参加者

【田子の浦交差点の改良について】

- 国道202号、県道平瀬佐世保線、市道花高循環線が交差する田子の浦交差点は、特に三川内方面からの交通渋滞が深刻。三川内方面から田子の浦交差点に入ってくる場合は、右折レーンがなく大型車等があると直進・左折ができないことが要因であると思われる。ここの解消について何か対策があるか伺いたい。

- ハウステンボスが年間300万人の集客を目指した経営構想を掲げていると聞く。更にIR誘致が決定したら年間673万人、その約半分が車を使用すると想定されており、交通がパンクすることが予想される。事故や災害発生時の緊急車両の通行にも支障をきたすのではと地元住民は不安である。
- 市長の政策の中で、ハウステンボス周辺をはじめ市内各地の交通インフラ整備、渋滞対策を掲げておられるが、早岐地区は佐世保市発展の要であることに再度目を向けていただき将来に向けての最重要課題として対策を講じていただきたい。



2023.11.30 早岐地区

令和5年度早岐地区 意見交換内容(要旨)

テーマ:(1)交通インフラの整備

市長

- IR誘致は交通が大きな課題である。交通インフラを整備した上で申請ができれば一番良いとも考えるが、決定する前には進みにくい状況がある。もしIRが決定したら開業に合わせて早急に解決する必要がある。交通を分散させる意味でも空路の整備、船を使った移動の充実、鉄道網の整備も重要。
- 今後ハウステンボスが設備投資をされて、観光客増加を目指す計画を持っておられる。そのためにも交通インフラ整備は必要であると考えている。
- 高規格道路の整備については、市長就任後、国土交通省の関係機関に赴き、強く要望しているところである。佐世保の振興にとって大変重要な基幹道路であるため、早期実現に向けて地元の皆様の後押しを是非お願いしたい。地域の交通インフラ整備は地域振興、産業振興に繋がっていくものと認識している。

土木部長

- 県道平瀬佐世保線、国道202号の交差点は、市道以外は既に改良済。市道部分については一般国道202号交通安全施設等整備工事で県が事業主体となり進めている。
- 右折車線がないことから、後続車両の直進・左折阻害が発生し交通渋滞を起こしている状況。更に観潮橋側から市道に入る際に道路中心線がずれていることで走行に支障をきたしており、現在、市道部分の右折帯と直進・左折レーンの整備のため県が用地交渉をされている。用地の調整が完了次第、工事着手予定。その際は地元の皆様のご協力をお願いしたい。



令和5年度早岐地区 意見交換内容(要旨)

テーマ:(1)交通インフラの整備

土木部長

- 主要都市間や地方部間の時間短縮や定時性確保のため、高規格道路など広域道路ネットワークの構築について、国・県・NEXCO西日本に対し要望活動を実施している。

【西九州自動車道の整備促進】

①武雄佐世保道路(大塔IC～武雄南IC区間)の4車線化の早期事業化

22km中、既に13kmは4車線化済。残り9km区間について要望。用地は取得完了。国の事業決定を待ちNEXCOの事業として進めていただくことになると考えている。

②武雄佐世保道路4車線化に合わせた休憩施設の設置

③大塔ICの渋滞対策の実施

料金所先の信号停車による渋滞が発生。令和9年度の4車線化全線供用開始までに渋滞解消対策をとっていただくよう要望

④佐世保道路(佐々IC～大塔IC)の4車線化の整備促進

NEXCOで既に工事着手済。令和6年度から順次供用、令和9年度の全線供用に向け進めておられる。引き続き早期供用に向けた取組みを要望

⑤松浦佐々道路(松浦IC～佐々IC)の整備促進

引き続き早期供用に向けた取組みを要望

【一般国道205号の整備促進】

①針尾バイパスの早期完成

事業中区間2.2kmの早期完成に向けて国へ要望を行っている。

②東彼杵道路の早期事業化

ハウステンボス入口付近～東彼杵ICを結ぶ延長約15kmの道路。有料道路事業の活用を含めた整備手法の検討を要望。既にルート決定がなされており計画段階評価を終え、環境緒影響評価を実施中。

令和5年度早岐地区 意見交換内容(要旨)

テーマ:(1)交通インフラの整備

IR推進室

●長崎県とIR事業者共同で作成して国に提出した区域整備計画の中の交通計画として、

①県道ハウステンボス線道路改良事業
片側二車線にする工事を計画

②針尾橋の拡幅
針尾橋の間を埋め右折帯を確保

③国道202号 道路改良事業
浦頭交差点から4車線化工事中。残り東明中交差点からパールライン入口までの区間を計画中

④大村港周辺港湾等整備事業
空港からの海上交通の強化を計画

⑤西九州自動車道(佐々IC～大塔IC)4車線化
早期事業進捗を要望

⑥国道205号 針尾バイパスの拡幅
江上交差点～針尾橋事業実施中。早期事業進捗を要望

⑦大村港ターミナル整備、⑧早岐港ターミナル整備、早岐港係留施設整備、⑨高速旅客船の運航
ターミナルを再整備し海上交通の強化。大型旅客船、高速旅客船の運航を計画

⑩ハウステンボス駅舎の機能強化
JR利用促進によって施設に直接乗入れる自動車の総数を減らす目的

⑪ハウステンボス駅からの都市型ロープウェイ
駅から施設を都市型ロープウェイで繋ぐ計画

⑫パーク&ライド駐車場
離れた場所に駐車場を作り、施設に直接乗入れる自動車の総数を減らす



令和5年度早岐地区 意見交換内容(要旨)

テーマ:(1)交通インフラの整備

IR推進室

- 佐世保市で行う事業としては、交通ピーク時の迂回、抜け道対策としての桑木場花高線改良がある
- IR誘致に対する渋滞対策の基本的な考え方として、年間を通して4つのモードに区分し計画。
 - ①通常期
 - ②土日祝日
 - ③コンサート開催時
 - ④国際会議等大規模イベント時
- ①、②については道路拡幅などのハード整備で対応可能と見込んでいる。
- ③、④についてはハード整備に加え、交通の時間的分散、駐車場の分散、自家用車での来訪数の抑制を目的に、JR利用促進やパーク&ライド駐車場、デジタル端末を利用した効果的な誘導案内等。オーバーツーリズム対策としても十分に機能し得ると考える。今年度から来年度にかけてソフト対策の検討をしていく。



2023.11.30 早岐地区

令和5年度早岐地区 意見交換内容(要旨)

テーマ:(1)交通インフラの整備

地域参加者

- ハウステンボスで花火が上がる際には県外から多くの方が車で来られるが、警備員の方が配置される前から地元に入って来られるため早い時間から渋滞が発生し地元住民が困っている。
- 例えば、三川内地区コミュニティセンター、伝統産業会館の駐車場をパーク&ライド駐車場として利用させてもらい期間中だけでも三河内駅にハウステンボス号を停車してもらえれば電車移動ができ、渋滞緩和に繋がるのでは。市、ハウステンボス、JRで協議し対策をしてもらいたい。
- 現在ハウステンボス入口交差点が工事中だが、工事完了時期についてお聞きしたい。全て完了するまで通行止めとなるのか、県道崎岡早岐線を先に通行可能にするのかについても伺いたい。



2023.11.30 早岐地区

令和5年度早岐地区 意見交換内容(要旨)

テーマ:(1)交通インフラの整備

市長

- 早岐地区の交通インフラ整備は大変重要な問題であると認識。特にハウステンボスのイベント時の交通渋滞発生に関し、周辺住民の皆様にご不便をお掛けしている状況である。これまでも対策を行ってきたところではあるが、まだまだ改善すべき点はあると思っている。ご指摘、ご提案の件も含め今後しっかり改善していきたい。



土木部長

- ハウステンボス入口交差点の県道の切り替え時期については、令和6年1月16日と聞いている。これに伴い、長崎国際大学入口のバス停が県道のほうに移設される。国道205号本線は現在地盤改良を実施されているところであり、工事の完了時期は未定との回答をいただいている。

IR推進室

- ハウステンボスの花火の際に、写真を撮るために周辺地区に多くの方が入って来られる。生活道路でもあるため完全な市道封鎖は難しいが、地元の方にご協力いただき、入口にカラーコーンを置いて見知らぬ人が入って来られたら声を掛けることで対策をしている。行政が直接関与することは難しいが、ハウステンボスへその旨を伝えており、県警を含め協議をされているところである。
- パーク&ライドのご提案については、昨年度、三河内駅、川棚港、彼杵港、佐世保駅裏の暫定広場に合計500台の駐車場を確保した。三川内地区は、最終電車に間に合わない状況があったため、JRさんにご理解をいただいて三河内駅に停車する車両の増便・時間調整などを検討する必要があると思っている。
- パーク&ライドは単なる交通渋滞対策でなく、観光振興など二次的な効果もあると考えている。時間、場所の分散により、早岐・広田・中心市街地への経済効果に繋がる取組を続けていきたい。

令和5年度早岐地区 意見交換内容(要旨)

テーマ:(2)安心・安全なまちづくり

地域参加者

【空き家対策について】

- 早岐地区では特にここ数年、空き家が増加している。少子高齢化が要因のひとつでありこの先もつとこの状況は進んでいくと思う。経済的な理由から空き家をそのままにされているケースも見られる。市建築指導課で空き家現地調査を実施されているとのことだが、後日、調査結果をご報告いただければありがたい。
- 上原町では、空き家に住み着いた野生動物による糞害が問題になっていると聞いている。空き家現地調査が始まったということで少し前進したように思う。詳しい調査結果については自治協へ報告をいただきたい。

【小型緊急車両の導入について】

- 高齢者の増加に伴い救急車の要請が多くなっていると聞く。緊急車両の進入ができない狭い道や山間部において、病人の搬出に時間が掛かると命に関わることもある。他都市で小型救急車を導入している例があると聞いた。佐世保市もぜひ検討して欲しい。



2023.11.30 早岐地区

令和5年度早岐地区 意見交換内容(要旨)

テーマ:(2)安心・安全なまちづくり

市長

- 空き家問題は、佐世保市だけでなく、全国的に今後益々社会問題化が深刻になっていくことが予想される。できる限り先手を打って考えておくことが必要。
- 現在、民間の皆さんの力もお借りしながら空き家調査を行っている。結果については地域の皆様とも情報共有し、対策に努めていく必要があると考えている。今後は民間の不動産関係、住宅の会社とも連携しながら空き家対策を進めて行けたらと思っている。
- 小型救急車については、市民の命に関わる問題なのでご意見を参考にしながら努めていきたい。人手不足等により病院側の受け入れ態勢も厳しくなっている。そちらの充実も図りながら、今後の救急、消防の体制を作っていきたい。



2023.11.30 早岐地区

令和5年度早岐地区 意見交換内容(要旨)

テーマ:(3)自治会(町内会)活動の将来像

地域参加者

- 町内会への加入率低下、役員のなり手不足が課題となっている。加入率低下については、市でも対策をされていると思うが、効果を検証して今後も持続していただきたい。町内会には加入をするだけでなく、参画してもらうことが重要だと思っている。
- 以前自治会長を交代する際、次期会長が決まらず、数名の方に「とにかく2年ずつ会長をやってみてください」と話した。その後は役員の循環が上手くいっているようなので、そういったやり方もあるのかなと思う。
- 市として役員のなり手不足に関して考えがあればお聞きしたい。どの町内会も高齢化による役員のなり手不足などの問題を抱えているのではないかと思う。
- 市営住宅の住人も高齢化しており、自治会役員はほとんどが65歳以上。新たな入居者、特に若い世代を入れてもらえたら町内会役員の担い手不足解消に繋がるかもしれないと考えている。
- 町内会の問題は非常に難しく、妙案があるとは思わない。静岡県の浜松市は町内会の加入率が上がっているという。“浜松まつり”という全市をあげての祭りがあり、参加には自治会への加入が必須であることから若い世代の加入に繋がっているというお話が印象的だった。
- 早岐地区ではおくんちがなくなるなど交流の場が減っていると感じる。地域コミュニティ推進計画の中に「誰もが安心して暮らせる地域社会の実現」という文言があるが、地域共生社会の実現のためには、お互いに助け合う意識を育てることが重要であると思う。その意識を育てるために、お祭りなどの交流の場が早岐地区にもあったらいいと思う。



令和5年度早岐地区 意見交換内容(要旨)

テーマ:(3)自治会(町内会)活動の将来像

(4)その他の意見

地域参加者

- 若い世代の参画のためには、例えば小中高生に対し、町内会活動について話をする機会を作るなどして子どものころから地域へ協力する意識を育むことも必要だと思う。
- 公務員を退職された方々には町内会の役員になっていただき、一緒に町を盛り上げていただけるよう市長自ら声掛けをして欲しい。
- 町内会によって町費に差があることが脱会の理由のひとつになっているようだ。統一することは難しいと思うが、何か方法はないかと思っている
- 若い世代は仕事や家庭のことで余裕がないと思うが、早い段階から自治会活動に入っただくことで、退職後も十分参画していただけるのではないかと思う。
- 例えば市職員の、特に40～50代の現役の方が2年間だけでも役員活動をしていただけたらと思っている。

地域参加者

- 花高の市営住宅について。今年5月に3番館ができた。解体工事が行われており通行止めになっている関係で、出口が1か所しかない。朝夕の通勤時間は車が多く、出るときに危険なのでカーブミラーの設置が必要と思う。



2023.11.30 早岐地区

令和5年度早岐地区 意見交換内容(要旨)

テーマ:(3)自治会(町内会)活動の将来像

市長

- 町内会加入率や担い手不足については深刻に受け止めており、今後の町内会の将来像をどう描くかをしっかりと考えていく必要がある。
- 今後、地区自治協議会をはじめ町内に対する支援をしていきたい。地域ごとの予算をそれぞれ独立した形で予算運営できるような仕組みなど、他自治体での前例も参考にしながら、地域がもっと活性化できるような仕組みをつくっていきたい。
- 子どもたちに向けたパンフレットなども活用しながら、将来の人材育成にも繋げていきたい。
- 町内会費についてはそれぞれの町内会の考え方をもとに合意の中で決定することがベストだと思うが、我々も注視していきたい。
- 市OBの方が役員に就いているケースは非常に多いと感じており、市役所で培った経験を基に地元で頑張っておられることと思う。今後も退職される方には是非地元でご活躍いただけるようお願いをしていきたい。

市民生活部長

- 先日小学生向けに“町内会ってなあに”というパンフレットを配布した。今後子どもたちのタブレットに配信できるような仕組みを教育委員会にもお願いしたいと考えている。